

大規模稲作法人におけるキャベツの 生産性が飛躍的に向上

湖東農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

彦根市の大規模稲作法人（経営面積 約160ha）では、収益性の向上と冬期の余剰労働力を活用するため、平成23年度から本格的にキャベツを中心とした露地野菜栽培に取り組まれています。平成23年度はキャベツを3.4ha作付けされましたが、十分な収量が確保できなかったうえ、生育のばらつきが大きかったため、収穫等に多大な労働力がかかるなど問題を残す結果となりました。そこで、この問題解決に向けて、当法人の野菜担当の従業員（3名）に対して、下記の点を中心に支援を行いました。

【普及活動の内容】

従業員3名と問題点の原因究明とその対策について、適時検討しました。

（1）収量の低下

事前に作業計画を立てておらず、水稲との競合によりいくつかの作業が遅れたことが主な原因と確認しました。そのため2年目以降は、栽培開始前に作付計画と労務計画の調整を十分に行い、開始後も毎月、生育を見て、修正するように助言することにより、適期作業の徹底を図りました。

（2）生育のばらつき

育苗時の葉の黄化や生長点の萎縮など一部の生育障害に起因していることが判明しました。そこで、原因特定のために再現試験を行い、硫黄欠乏であることを解明し、2年目以降の育苗の改善につなげることができました。

【普及活動の成果】

計画性をもって作業を行うことにより、作業の遅れが見られないようになりました。さらに毎月のミーティングにより、栽培における問題点やその対応についても、従業員間で共有できるようになり、生産性に対する意識が高くなりました。その結果、平成24年度は、面積を約倍増されたものの、単位当たり収量が初年度の1.7倍となり、労働時間あたりの所得が2,000円を超えました。この成果を踏まえ、今年度は6.1ha、26年度は10haの作付け拡大を予定されています。



育苗における生育障害

